



序にかえて

大八洲開拓農業協同組合長 佐藤孝治

私どもの開拓の足跡をたどって見ると、いろいろな事物にぶつつかって、よくもここまで歩んで来ることができたと、われながらぞっとする事がたくさんあることに気がつく。

それを一つの事柄にまとめて書き残すことが、いかにむずかしいことであるかという事実を、いやという程味わった。私に多少なりとも文筆をものにする才能があれば又別だが、好むと好まざるとにかかわりなく、がむしやりに開拓一すじに生き抜いて来ることが精一ぱいで、こういう記録を書きつづることが容易な業ではないことを、私自身が一番よく知っていた。

そこで大八洲開拓入植二十周年記念式典の席上、開拓二十周年記念事業の一つとして、「大八洲開拓史」の編さんを宣言した。宣言したというと少し大げさになるが、いわゆる背水の陣のことわざのように、ああいう席で発表して置かないと自分自身が本気になって書く気にならない。自分自身を追いつめて置いて、書かざるを得ない瀬戸際に立たせて、ことを進める下心もあったことは否めない事実である。

その時の気持ちでは、こうして置けば追いつめられて二、三年で何とかまとまるだろうという目算であったが、いざ仕事に取り組んで見ると、どっこいそんな甘いものではないことをいやという程思い知らされた。いい加減なことを宣言したと誠に申し訳なく思っている。

あれから二、三年どころか、もう八年にもなつて何とかようやくまとまった形になったが、自分でふり返つて見て、こんなぶざまなことがあるかと反省している。文章のまずいのはまあ仕方がないとして、その内容の貧困さは申すに及ばず、構成の不手際、何一つ書いた自分で満足なところがない。ただ事実を羅列したに過ぎないことをおことわりして置く。

私は昭和七年以来四十一年間、開拓以外の事はやつて見たことがない。その間奉天北大營の日本国民高等学校分校での生活、第一次武装移民彌栄村いよふかむらの建設、彌栄村の分村大八洲開拓団の建設、そして終戦、戦後の避難生活、昭和二十一年九月内地に引揚げ、佐世保港に上陸して故国の土を踏み、直ちに再度の国内開拓にいでん、茨城県北相馬郡菅生村と大井沢村にまたがる菅生沼地区に、満洲まんしゅう以来の同志を中心にして入植し「大八洲開拓組合」を結成、昭和二十三年農協法に基づく「大八洲開拓農業協同組合」となつて今日に至つてゐる。

満洲開拓の記録は、終戦後の避難のどさくさの中で、記録一切を消滅してしまつて正確な資料はなく、引揚げ途中長春（新京）での避難越冬の生活時代、又は引揚船でのコレラ保菌者がおつたため、四十七日間の防疫のための監禁同様の船中でのつれづれの間に、過去を思い起こして書きつづつた「満洲大八洲開拓団建設録」と、引揚げ早早関係筋に送つた、「大八洲開拓団避難状況報告書」と、長春でお世話になつた満拓の須田政美氏著「辺境農業の記録」という書籍から、大八洲に関する記録「土地なき開拓」と題した一節を載せさせていただいて、第一部：満洲編とした。

佐世保へ上陸して以来、内原での生活と入植のいきさつ、その後の今日までの迂余曲折うよきよくせつを断片的に書きつづつたのが、第二部：国内開拓編であり、この中には入植間もないころ、全国開拓自興会が出した「国内開拓はうまくゆくか」という菊田義男氏の書いた小冊子があり、その中に大八洲に関する一節があるので、そのまま載せさせてもらったことと、大八洲入植五周年開拓感謝祭記念に書いたパンフレット、「私どもの村づくり」（拙著）をそのまま載せてあること、組合の生長過程の諸統計と、開拓年譜を組み合わせてようやくとりまとめた。

第三部は「目で見る開拓の記録」として写真集にした。多少なりとも関係がおありの方には、一目見ていただければお

わかりのことと考へ、説明文は特に簡単に記して、ご覧になつて思い起こしていただければありがたいと思つている。

人間の歴史は悠久であり、ここに記す私どもの開拓史などは、その一こまにもならないささいな出来事に過ぎないかも知れないが、私どもとしては精一ぱいの生き方の一つであつたと思へ、決して過去に悔いを残してはいないが、その渦中にあつて夢中で生きて働いて来たに過ぎない。それが善であるのか、悪であるかは、われわれには正確に判断出来るとは考へていない。長い人間の歴史の中で、当事者としての、とやかくの主張はよしにしよう。読んで下さる方々の賢明なご判断と、後世史家の批判を仰ぐ資料を無条件で書き残すだけが、本書の使命であると思へているに過ぎない。

この書をまとめるに当たり、長い間原稿の校正、資料の整理等に御尽力いただいた県開拓指導員鈴木聖志・海老根修両氏の労を謝するとともに、貴重な記録をお寄せ下さつた北海道の須田政美氏、その他の方々に対し深く感謝申し上げます、岩上知事始め、日本高等国民学校長加藤彌進彦先生、元山形県農地開拓課長当時「大八洲開拓団建設史」の小冊子を印刷刊行していただいた真造圭一郎先生に、特に乞うて本史の序文をいただき、山形県の安孫子知事を煩わして題字の御揮毫をお願い出来ましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

写真集には満洲時代の写真を集めているうちに、思いもよらぬ方々から、思いがけない古い写真をたくさんお寄せいただいた。組合員梅津利美君が、満洲時代大八洲開拓五周年記念祭の写真を郷里の生家に送つてあつたのを、そっくりいただいたり、その他の方々から寄せられたのを合めて、大八洲の写真集だけのつもりであつたが、あまりにも得難い、北大営時代や、屯墾隊時代、彌栄村建設時代の写真等もお借りすることが出来たので、黎明期として北大営時代、母団彌栄村関係の写真を掲載することにした。これには特に内原の酒井章平先生、北海道彌栄開拓農協の宍戸好策氏から、たくさん資料を頂戴いたし誠に感謝に堪えない。

さきにも記したように、断片的に書きつづつた文章や資料には、辻褄の合わない行き当たりばつたりな、杜撰な点のあることは筆者自身がよくわきままえているので、あえて弁解はしないことにするが、写真だけは正真正銘で、決してうそい

つわりのない、そのままの形で、古くても変わらない姿で写し出されているので、せめてもの真実の姿をと思い、できるだけたくさん載せるように努力したので、ご覧いただければ幸甚こうじんの至りと存じます。

昭和四十九年二月